

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年7月29日

紙巻きタバコと電子タバコはロングコロナリスクを高めるか？

【松崎雑感】

Letter to the Editorの紹介です。様々な研究報告によれば、シガレットあるいは電子タバコ使用者が、ロングコロナリスクを高めることが明らかとのこと。しかも中枢神経系症状（健忘、brain fogなど）との関連が強いようです。ニコチン摂取を伴うタバコ製品使用が、中枢神経への悪影響をもたらすことは常識ですが、感染後の合併症増加にしっかりと関連していることが示されています。

紙巻きタバコと電子タバコはロングコロナリスクを高めるか？

de Granda-Orive JI, Solano-Reina S, Jiménez-Ruiz CA. **Are Smoking and Vaping Risk Factors of Developing Long and Persistent Post-COVID-19?. *Open Respir Arch.*** 2022;4(4):100195. Published 2022 Jul 29. doi:10.1016/j.opresp.2022.100195

編集者への投稿

新型コロナウイルス感染後、多くの人々は軽症で済み、入院の必要がケースは少ないことが分かっている。大半の患者は2～6週以内に元の健康状態に戻るが、長期間体調不良の続く人々がいることも分かってきた。

発病から3か月経っても体調不良が少なくとも2か月以上続き、別の疾患によるものではないことが確認された場合、ロングコロナと診断される。

フェルナンデス・デ・ラス・ペニャス氏らは、post-COVID symptomsを以下のように分類している： potentially infection related-symptoms急性期症状（発病から4～5週まで）、acute post-COVID symptoms急性感染後症状（5～12週）、long post-COVID symptomsロングコロナ症状（12～24週）、persistent post-COVID symptoms遷延ロングコロナ症状（24週以上）。

現在および過去喫煙者においては、新型コロナウイルス感染が重症化し、死亡リスクを高めることが明らかにされている。さらに、喫煙者では有症状感染が有意に多いことも明らかにされている。

それでは、紙巻きタバコ喫煙あるいは電子タバコ使用はロングコロナリスクを高めるだろうか？ ウィテカー氏は、最近行った大規模調査で、12週以上症状の続くロングコロナリスクが、女性、高齢者、肥満者、紙巻きタバコあるいは電子タバコ喫煙者、感染による入院者、貧困階層、ヘルスケアワーカーに有意に高いことを報告した。

エメセン氏は、多変量解析により、感染から6か月まで体調不良が遷延するリスクが、高齢者、女性 (OR 1.74, 95% CI 1.57–1.93)、貧困層 (OR 1.37, 95% CI 1.14–1.65)、**現在喫煙者 (OR 1.15, 95% CI 1.02–1.29)**、3個以上の基礎疾患を持つ人々 (OR 1.78, 95% CI 1.33–2.37)、5個以上の急性期症状を持つ人々 (OR 2.47, 95% CI 2.19–2.78)、ICU入院歴のある人々 (OR 2.18, 95% CI 1.51–3.14) で有意に高く、感染前に2回以上ワクチン接種を完了した人々 (OR 0.53, 95% CI 0.40–0.72) で有意に低いことを報告している。

デグランジュ氏は、急性期に軽症だった喫煙者で、記憶障害が有意に多いことを報告している。フセイン氏らも、喫煙がロングコロナの重要な予測因子であることを発表している。ただしすべての報告が一致した成績を出しているわけではない。

新型コロナに感染した喫煙者ではICU治療と人工呼吸器治療リスクが高いため、肺線維症をきたすリスクが高かった。

また、喫煙および気管支喘息がICU治療リスクと死亡リスクを高めることも明らかにされている。

以上の知見を踏まえると、新型コロナウイルス感染と重症化、死亡、およびロングコロナリスクを避けるために、すべての紙巻きタバコ喫煙者と電子タバコ使用者に、しっかりと禁煙を勧める必要がある。